

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290100056		
法人名	有限会社 サン・ショウ		
事業所名	サングループホーム横内		
所在地	青森市横内字若草13-2		
自己評価作成日	平成25年10月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成25年11月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①事務所専任の薬剤師による服薬管理及び相談 ②広大な畑で野菜を育て収穫する ③天然温泉入浴に活用 ④天然木をふんだんに使用し、居心地の良い空間 ⑤AED設置 ⑥多方面の協力体制の充実(他グループホーム、町会、消防団、大学等) ⑦地域包括支援センターとの独自の協力体制</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地域のグループホーム同士で、お互いの運営推進会議に職員が参加し合い、他のグループホームの取り組みを参考にしながら、自らのサービスの質の向上に取り組んでいる。 管理者は、職員とコミュニケーションを密にし、意見や希望を反映させた勤務体制や研修派遣を行っており、職員から信頼が得られている。 また、家族が頻繁に面会に訪れ、利用者の通院や外出を支援してくれる等、家族との関係が良好である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で理念を共有し、毎日の生活の中に反映させるように、お互いに声をかけ合いながら、協力しています。	利用者が「明るく、仲良く、楽しく」生活できるように、地域との密接なつながりを大事しながら共に助け、家族の和を育てていくことを理念に掲げており、申し送り時に唱和する等して、職員間で共有している。また、理念に沿ったサービスが提供できているか、職員同士で話し合い、確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の大学と協力して、中高生を対象とした介護体験授業のお手伝い、また、実習生の受け入れを行っています。	地域住民に、町会組織を通して、気軽に立ち寄ってもらうよう働きかけている他、様々な催し物を開催して、参加を呼びかけている。また、地域包括支援センター主催のイベントに利用者が参加し、地域住民や他のグループホームの利用者等と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の大学からの実習生や音楽ボランティアの受け入れと共に、認知症の理解を深めていただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスを向上するために、他のグループホームの運営推進会議に積極的に参加し、情報収集をし、連携を図っています。	運営推進会議は、委員の都合を調整して開催し、自己評価や外部評価の結果、目標達成計画等を説明して意見をもらい、サービスの改善や質の向上につなげている。また、地域のグループホーム同士が連携し、お互いの会議に職員を派遣し合うことで、運営の参考にしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	外部評価や運営推進会議の結果を報告したり、職員も必要に応じて出向き、連携を図っています。	市へパンフレットや広報誌を配布すると共に、自己評価や外部評価の結果、目標達成計画を提出し、報告をしている。市の担当者の中には定期的に顔を出し、必要に応じて連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、職員間の研修を通じて、演習をしたり、予防策について話し合いの機会を設けています。	身体拘束の内容や弊害について、外部研修やその伝達研修、マニュアルの整備等で理解を図ると共に、拘束を行わない姿勢を申し送りして日々確認している。玄関や居室等を施錠せず、外出傾向を察知するよう見守りながら、必要に応じて職員が付き添い、外出するようにしている。また、無断外出時は、地域住民等で組織するグループが捜索に協力する体制である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待について、研修や勉強会等を行い、注意し、防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部・外部研修、勉強会等に参加し、理解を深め、注意し、防止に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明チェックリストを作成し、相互にチェックして理解を深めるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とのコミュニケーションをとりやすい環境を整え、事業所内に苦情受付窓口、外部受付窓口を提示し、家族が意見を申し出やすい環境づくりを行っています。	利用者の意見等は、日常の会話や表情、しぐさから察するようにし、家族の意見等は、利用者の状況を報告したり、苦情受付窓口を明示したりして引き出すようにしている。出された意見等は、速やかに対応を検討し、対応策を利用者等に説明すると共に、職員に周知して運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に対話の場を設け、全職員より意見、提案を求め、より良い環境づくり、人間関係づくりに取り組んでいます。	職員から、申し送りやカンファレンス時に運営や利用者の処遇に関する意見を聞き、出された意見は、実践を踏まえて検討し、運営に反映させている。また、2つあるユニット間で日頃から交流し、職員一人ひとりが全利用者との馴染みの関係を築き、ユニット間の職員異動の際に影響がないようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常的に対話の場を設け、全職員より意見交換を求め、より良い環境づくりをするように心がけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会、勉強会には、全職員が参加できる体制づくりを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行事参加、見学、研修等を通じて、意見交換しつつ、サービスの質を向上させていく取り組みをしています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何度も事前に訪問し、本人の意向の聞き取りを行い、安心して暮らせるように支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問し、家族とよく話し合い、情報提供をしていただき、それに伴い、1番望んでいる事を提示できるような関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、聞き取りによる適切な状況判断により、支援サービスが受けられるよう、関係機関との連携を図っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を人生の先輩、家族の一員とし、相互の信頼関係を結べるよう努力・支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にし、利用者の情報提供を通じて、意志疎通を図り、職員の意思統一を進めて、お互いに何でも言える関係づくりを行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の要望を基に、馴染みの人や場所に積極的に足を運んでもらうように声がけし、来苑していただく環境づくりに努めています。	利用者が関わってきた人や馴染みの場所を、本人や家族から聞いて把握している。知人等との電話での連絡を取り持ち、美容院や自宅、お墓等の馴染みの場所に出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の性格を職員が把握し、コミュニケーションを図りやすい雰囲気づくりを心がけています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者、家族とは普段からコミュニケーションを図り、サービス終了後も電話連絡や訪問等をし、相談に応じています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との対話を密にし、思いや希望を把握できるように対応しています。	日頃から、全職員が利用者の話を傾聴するように努めると共に、入浴中等、1対1になる場面で思い等を聞いて把握に努め、それを申し送りやケア記録等で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、関係機関からの情報を基に、本人と対話しながら確認をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の行動パターンを把握し、心身状態の観察をしながら、変化に応じ、適切な助言、支援を進めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族の意向をより理解するために、コミュニケーション等で知り得た小さな情報・変化でもケアプランに反映させ、より快適な生活を送れるように作成しています。	介護計画は、担当職員が利用者や家族等の意見をよく聞いて把握した上で、ケアマネジャーとカンファレンスを行い、作成している。また、実施期間終了後や状況の変化時には、モニタリングや再アセスメントを行い、見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録紙は、身体、精神、病気等により、個々に違う様式になり、情報、変化にすぐ対応できるようになっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	糖尿病の利用者を積極的に受け入れ、インスリン管理、施行を行っています。それに伴い、薬についての勉強会を開催しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域、町内会員として、様々な情報交換、交流を通し、資源を活用して楽しめるように対応している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望を基に、会社の特性を活かした医療関係との連携を大切に、急変時にも家族への素早い対応を行っています。	かかりつけ医を受診することができ、家族が通院の支援を行っている他、認知症の専門医や歯科の協力医療機関を確保し、適切な医療を受けられるよう支援している。受診結果は、通院後に家族から聞き、ホームで支援した場合は、家族に電話等で伝えている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックを基に、状態観察を行い、異常の早期発見に努め、医療関係者との情報交換、相談を密にしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後、家族、関係者と定期的に、または状況により、随時話し合い、早期退院に向けて連携を図り、関係者との情報交換、相談を密にしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期には対応していません。	入居時、重度化や終末期には対応していない事を家族に説明し、同意を得ている。毎日のバイタルサイン測定や訪問診療、薬剤師の服薬指導等により、利用者の日常の健康管理を行うと共に、急変時の対応について明示している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の対応マニュアルを作成し、対応しています。グループホーム内にAEDも設置しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム内に非常食、水分を備蓄し、町内において自防捜(町内見回り組織)の協力隊員となり、町民一体となる協力体制を整えています。	夜間も想定した避難計画を策定し、年2回、職員と利用者が一緒に避難訓練を行っている他、災害時に消防団や町会等の協力が得られるように体制を整えている。また、業者による定期的な設備点検の他、様々な災害発生時に備え、食料や物品等の備蓄を行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常的に対話を持ちながら、個々の人格尊重が行えるよう、お互いに対応しています。	利用者の言動を受容するように心がけ、トイレ誘導や汚物処理等の際は他者に気づかれないう、また、入浴やトイレ時はプライバシーに配慮している。利用者への対応は申し送り時に確認し、必要に応じて改善に向けた取り組みを話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望や思いを聞きながら、発言や意志表示ができる環境づくりを心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分らしく自由に過ごせる時間等を考慮し、快適な生活を送れるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の馴染みの美容院があり、自発的に出かけられています。また、施設内にも出張美容院が来苑しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者、家族から聞いて好みを把握し、献立に取り入れています。また、利用者の状況に合わせて、食事の準備や片づけを一緒に、職員も利用者と一緒に食事をしています。	入居時の嗜好調査や家族の情報で好みを把握し、献立に反映させている。職員は、利用者と一緒に食事の準備や後片付けをすると共に、一緒に席で会話をしながら食事を摂り、必要なサポートも行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケア記録に水分・食事を記録し、全職員が把握できるようになっており、それに基づき、声かけ、栄養、水分量のコントロールができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床、入床時、毎食後に声がけ、見守り、うがい、歯磨き、マウスウォッシュを施行しています。また、定期的に口腔内点検と歯磨き指導をしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時、随時の排泄支援、誘導、声がけ、見守りを徹底し、排泄時の清潔保持の支援、または状況に応じて、病院への受診対応をしています。	一人ひとりの排泄状況を記録してパターンを把握し、自立に向け、事前誘導等の支援や、おむつやパットの使用継続の可否の検討を行っている。尿意や便意の確認等は小声で行い、失禁時の対応は部屋やトイレ等で扉を閉めて行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の運動、水分、食事量、排便リズムをチェックし、スムーズな排便を促し、適切な支援をしています。必要に応じて、病院受診もしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	職員は利用者の入浴習慣を把握しており、意向に合わせて入浴支援をしています。また、当ホームは天然温泉で、いつでも入浴可能となっています。	利用者の入浴習慣や好みを聞いて、入浴日や時間帯を決めているが、いつでも入れる温泉のため、希望に応じて入浴できるように支援している。また、羞恥心に配慮して、一人ずつの入浴としている他、拒否する利用者は次の日にしたり、時間を変えて対応する等、工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体力を考慮し、適度な運動後に休憩を取るよう支援している他、不眠時等には対話をしたり、一緒に行動し、入眠を促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による服薬指導、管理が徹底されています。また、定期的に職員の勉強会を実施しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や力量を把握し、ボウリング、ルームランナー、レクリエーション等、それぞれの楽しみ毎に支援し、また、促すよう働きかけをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物等、日常的に外出の機会を設けている他、観光、町会行事への参加等を行っています。外出時は、移動距離や身体状況に配慮し、その日に合った支援を提供しています。	ドライブ等の外出行事を設けている他、利用者個々の希望に応じて、毎日のように近くを散歩したり、自宅や親戚宅、買い物等に出かけ、外出機会を増やすように努めている。また、利用者の希望内容によって家族等の支援が必要な場合は、協力を呼びかけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出張パン屋さんが来苑し、利用者に好みのパンを購入していただけるよう見守り、声がけをしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により、電話や手紙のやりとりに対応できる環境づくりをしている他、利用者も何度となく電話希望をされています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者ご自身の作品を季節毎に作成し、フロアーや居室に飾っています。温度、湿度を確認し、居心地良い温度調整を心がけています。	木をふんだんに使って、落ち着いたぬくもりのある雰囲気づくりとなっており、居間にはソファや観葉植物を置いたり、スナップ写真を飾っている。大きな窓から日差しが入り、明るく、エアコンや床暖房、加湿器等で適切な温度・湿度を保っている。また、窓から庭の木々が見え、季節を感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーの中に一人で過ごせる空間をつくると共に、中央フロアーに食卓テーブルを配置して、会話しやすいように工夫がなされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者愛用のソファ、家具等をお持ちいただき、生活していただいています。	居室には、利用者の好みの物を持ち込むことができ、仏壇や位牌、家族写真、ソファ等が持ち込まれている。また、持ち込みが少ない場合は、職員と一緒に、作品や写真を飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内に利用者が分かりやすい標識やぬいぐるみ等を配置しています。		